

協議会だより

NO.41 (2011.5)

山口県農地・水・環境保全向上対策協議会

TEL 083-933-0755

地域リーダーの声 Part.7

仁保の里保全会・向上対策仁保（山口市）

代表 梶本 孟生



近代的田舎社会づくりの創造

話は40年前にさかのぼって恐縮ですが、昭和40年代のむらの人口は激減するし、中学校も廃校となるとうわさ話も出る中、昭和47年には死者3人も出す未曾有の大水害に見舞われ、仁保地区は廃墟となるとまで言われていましたが、先人の昼夜に亘る努力によりむらづくり計画が行われました。

むらづくりの指針

①生産基盤の整備 ②生活基盤の整備 ③人間味豊かな人づくり

この3本の柱～いわゆる「近代的田舎社会づくり」であります。近代的田舎社会づくりとは、仁保に住み「農業で都会並みの生活が享有出来るむらづくり」であります。

- ①生産基盤の整備～すなわち農業生産の基盤づくりです。昭和52年から進められた基盤整備事業も平成13年に400ha以上の事業が完了し、現在20組織の営農組織が頑張っています。
- ②生活基盤の整備～道路・河川網の整備を行い、近郊に通勤しながら農業が出来る体制づくり。また、水環境の整備に係る農業集落排水事業も平成13年に完了。
- ③人間味豊かな人づくり～古き良き人情をいつまでも残そう。これらの事業の取組の基本は、中山間地域で枝・葉状態の集落が連たんした地形ですが、費用対効果でなく生活環境の厳しい所から良くしていこうと言う基本的な取組の中で公共事業が行われてきました。平成13年には「豊かなむらづくり」地域として「**天皇賞の栄誉**」に輝きました。

あれから10年、仁保地区の活性化も「道の駅」を拠点とし、地区民が理想とするむらづくりの一つ「ワンストップサービス」も出来るようになりましたが・・・。

農業情勢の悪化による後継者問題・高齢化農家、また最近ではサル・イノシシによる獣害による被害で生産意欲の喪失が深刻化していますが、農地・水・環境保全向上対策により集落全体での共同活動で乗り越えなければならぬと頑張っています。



